

## 学長挨拶



日本福祉大学 学長 児玉 善郎

平素より日本福祉大学に多大なるご支援、ご協力を賜り、厚くお礼を申し上げます。

日本福祉大学は、1953年に中部社会事業短期大学として開学し、今年で65年になります。そして1957年に4年制大学の日本福祉大学を開設して61年を迎えます。開設当初は、社会福祉学部1学部だけでしたが、昨年度美浜キャンパスに開設したスポーツ科学部を含めて、現在は8学部4大学院研究科を擁する「ふくしの総合大学」へと発展してきました。

その中で今年、健康科学部、子ども発達学部、国際福祉開発学部の3学部が、開設10周年を迎える記念の年となります。大学全体として、また各学部において10周年をお祝いする行事の企画をすすめているところです。

皆さますでにご周知のことと思いますが、わたしたちが暮らす社会には、生活をする上でさまざまな問題を抱えた人たちが多数存在し、少子高齢化、経済のグローバル化など社会の構造的な変化と相まって、人々のくらしをとりまく問題状況は、深刻化、複雑化の一途を辿っています。本学が、開学から65年を経るなかで「ふくしの総合大学」へと発展してきたことには、このような社会的状況が背景にあり、人々のしあわせなくらしの実現に向けてさまざまな分野から支援する確かな知識と技術をもった専門職がますます求められるようになってきているからだと思います。

このような社会的要請に応える為にも、本学ではこれまで以上に教育の質向上を図り、卒業時に確かな知識と技術をもち社会のさまざまな分野で役割を果たすことができる専門職を輩出していくことが重要と考え、全学を挙げて取り組みを進めています。

2014年から文部科学省の「地(知)の拠点整備事業(COC. Center of Community)」の採択を受けた、「持続可能な『福祉社会』を担う『ふくし・マイスター』の養成」事業では、学生たちが地域のさまざまな現場に赴き、学ばせてもらう地域連携教育に取り組んでいます。学生自ら地域の課題みつけ、その解決に向けて地域の人や組織と連携して取り組むという学びを実践しています。地域と連携した学びを4年間にわたり積み重ねて一定の要件を満たした学生には、卒業時に「ふくし・マイスター」の称号を大学が授与します。それにより、学生が卒業した後にもこの称号を持っていることを活かして、地域に貢献していくことを目指しています。

2016年からは、同じく文部科学省の「教育再生加速プログラム(通称:AP事業)テーマV卒業時における質保証の取組の強化」の採択を受け、学生一人ひとりが4年間にわたる正課内外の学びや活動を「統合学生カルテ」に蓄積し、教員がそれらを評価することにより、卒業時に身に着いた力に見える化を図ることを目指しています。

本学で学ぶ学生・大学院生がそれぞれの夢や希望の達成に向けて取り組み、社会で力を発揮できる人となるように、これらの取り組みだけでなく、本学教員一人ひとりの教育力の向上にも努めていきます。

大学後援会の皆さまにおかれては、これらの教育の質向上をはじめとする大学が取り組む事業についてご理解いただくとともに、今後とも多大なるご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。